

月刊

平成30年6月1日発行(毎月1日発行)
昭和37年4月18日第3種郵便物認可 第60巻第9号(通巻第780号)

プリテックステーション

THE PRITEC NEXT STAGE

2018年6月号

印刷業のフルフィルメントサービス
が始まっている

情報流通という業務を支援する

ハイデルベルグ
パッケージングDayレポート

最新のパッケージソリューションの全貌見せる

製本加工をスマートファクトリー化<シュウエイ>

子育てフリーマガジン発行<北越印刷>

講演 ダイバーシティ経営の可能性

アイシーエクスプレス

物流事業からプリント事業まで 顧客の経営に貢献するBPO事業として展開

昭和35年（1960年）、新聞社やテレビ局に向けてオートバイで原稿やフィルムを届ける業務から始まったというアイシーエクスプレス株式会社は、平成4年（1992年）、データプリント業務を行う情報物流事業をスタート。現在は、プリンティングサービス事業として、同社を支える事業の一つに成長しており、物流事業まで含めた顧客の経営に貢献するBPO事業を展開している。同社の代表取締役社長の渡辺一隆氏と取締役プリンティングサービス事業部長の佐竹長英氏に話を伺った。

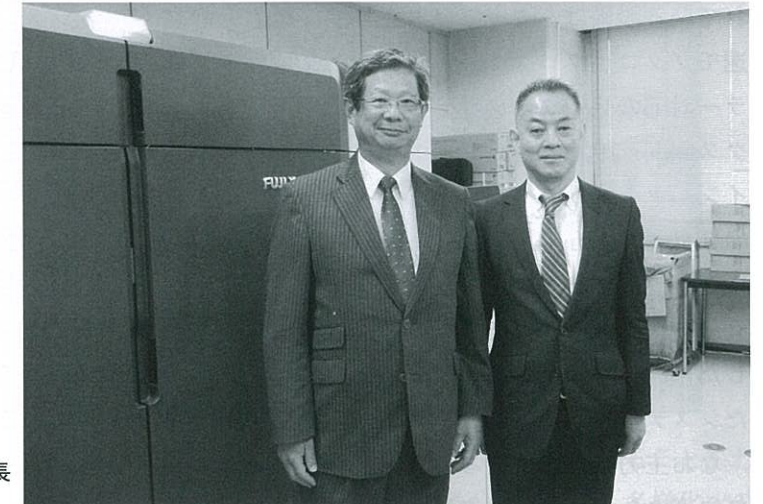


昭和島にあるアイシーエクスプレスの本社

情報センターの受託からスタート

二輪運送業務で創業したアイシーエクスプレスは、海外から空輸されてきた情報を運ぶ事業から運送事業を拡大してきた企業。やがてコンピュータ技術の発展にともない、磁気テープなどの記録媒体を運ぶ業務をスタートさせ、その後、大手企業との共同プリントセンターの立ち上げを行ったことからプリント事業を始めるに至っている。同社では、その他にも、医療機器の配送やコンサート機材の輸送、テレビ中継のためのカメラマンを同乗させたオートバイの運転などマラソン大会における取材協力なども行っている。現在は、物流統括事業、保管貨物事業、プリンティングサービス事業の3事業を軸とし、各事業を融合させることで付加価値をつけたワンストップサービスを展開している。

プリンティングサービス事業のベースとなった情報物流事業部は、昭和61年（1986年）に大手コンビニエンスストアから、情報センターを受託したことがきっかけで始まった。アウトソーシング先を活用することに積極的だったコンビニエンスストアからの勧めもありスタートしたという背景がある。同社はもともと報道の仕事を受注していたことから24時間365日操業していたため、24時間営業のコンビニエンスストアと利害の一致もあり、新しい事業として始まった。



渡辺一隆社長(左)と
佐竹長英取締役事業部長

その時、受注したのが、フロッピーディスクの内容を磁気テープへまとめるという業務で、そこからプリント事業も行うようになっていった。しかし、コンビニエンスストアの事業だけでは仕事に波があったため、閑散期の業務を埋めるために他社からもアウトソーシングを受けるようになっていった。

情報物流部門は、平成4年（1992年）、媒体の変換とプリント業務をする部署として開設した。その後、プリント事業を強化させ、平成21年（2009年）、プリンティングサービス事業部へ名称を変更。プリンティングサービスの主な営業品目は、データプリントサービス、請求書発行代行サービス、オンデマンド印刷サービス、プリントセンター一括受託サービス。プリントと物流機能が高度に連携した独自のサービスを提供しており、24時間体制で対応し、プリント後は同社の輸送ネットワークでスピーディに納品される。

プリンティングサービス事業では、ビジネスフォームなどの帳票印刷に関する業務をはじめ、オンデマンドプリント、メールシーリングサービス、DM発送サービスなどにも対応。特に物流・倉庫・プリントの事業を融合した「MOPS（メールオーダーピッキングサービス）」、24時間対応で輸送ネットワークを活用したサービスなどは大きな特徴となっている。MOPSは、「どのような企業でも大なり小なりニーズとしてあるもの」と渡辺社長も期待を寄せている分野である。

この間、プリント事業を拡張させてきたということもあり、現在、売上のうちプリント事業が占める割合は38%ほどに拡張している。なお運送事業は51%、倉庫・賃貸事業11%である。しかし、「今後はデジタル化で益々ペーパーレス化が進んでいくと思います」という渡辺社長。“物を作って入れて運ぶ”以上、人手を介した物流はなくなる。だからこそ「運送と倉庫、そしてプリントの3つの業務を融合させていくことが必要だと考えます」と語る。

データ出力から保管、発送まで

同社のプリンティングサービス事業のメインとなっているのはデータプリントだが、事業指針として“BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）で企業・団体など顧客の経営に貢献すること”を掲げている。そのため、物流統括、保管貨物、プリンティングサービスの各事業を有機的に結び付けることで、あらゆるニーズに効果的に対応していくことを目指している。

プリンティングサービス事業では、アウトソーシングを一括受託するほか、請求書・通知物発行代行なども行っている。これに、創業当時の業務である物流・保管業務を融合させることで、データ出力・データ渡しから輸送や保管に至るサービスが行われている。

現在、プリンティングサービス事業部に設置さ

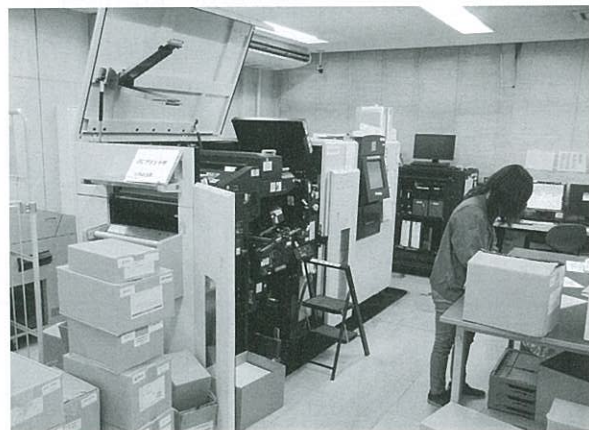
れている設備は、カット紙および連続紙対応の高速モノクロ・プロダクションプリンタに加え、カラー対応のデジタルプリンターとして富士ゼロックスColor 1000 Press (2台)、Docu Print3540とインパクトプリンタほか、昨年、富士ゼロックスのプロダクションプリンタ「Iridesse Production Press」(イリデッセ)も2台導入している。イリデッセは、Color 1000 Pressの後継機として導入したもので、Color 1000 Pressの性能がアップしたシステムとして選択した。

なお主力システムとなっている高速モノクロ・プロダクションプリンタは計17台に上る。後加工も充実しており、メールシーラー、連続帳票断裁機、製本機、中綴じ折り製本機、天糊簡易製本機、封入封緘機などを設備。

物流企業として大規模のレーザープリンタ、フルカラープリンタを備えていることで、プリント業務だけでなく、後処理、管理、納品まですべての企業を自社で保有・対応できるようになっている。これにより、高い品質と短納期での対応に加え、低コストでのサービス提供を可能にしている。

複数の業務の分散にはリスクがある

なお、顧客が管理している個人情報などのデータ出力も行うことから、情報セキュリティへの対策も万全を期している。各フロアの入退室管理や入退室エリアと執務場所への監視カメラの設置、廃棄用紙の処理なども徹底。情報セキュリティマ



データプリントの現場

ネジメントシステム、プライバシーマークの認証を取得しているほか、ISO14001の認証も取得している。「情報の扱いにはセンシティブなものがあります」という渡辺社長。そのため、認証取得は必要な取り組みとなっており、今後もさらに深堀りしていきたいと考えている。

情報がセンシティブであるほど、業務毎に異なる企業へ業務を発注することはリスクが高い、と分析する。「印刷から配送まで、一つの企業に依頼することができれば、それだけリスクが減少します。お客様にとっては安心して発注できる環境となります。だからこそ、印刷と物流、そして保管という3つの業務が融合していることが求められると思います」と語る。

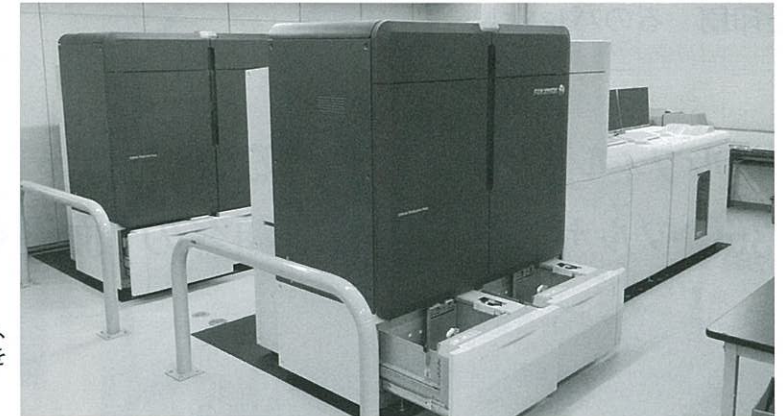
加えて、請求書や帳票プリントは、一度に大量のプリントを行うため、コストが高み、セキュリティへの対応も必要とされる。こうしたニーズに対応して、スピーディー・セキュリティ・ローコストという3つの視点から、印刷物を安全・安定して受注できる体制を整えている。

多様な情報を処理

アイシーエクスプレスで行っているプリント事業は、業績あるいは会計の数字を載せている経理資料のほか、請求書、健康診断書、塾や大学の成績表、給与明細など内容は様々である。作業は顧客が制作したデータを受け取り、分類してピックアップし、出力・加工した後、封入・封緘して配送



Color 1000 Pressの後継機として、昨年、2台の「Iridesse Production Press」を導入した



するまでとなる。

特に同社では、プリント事業の部分で、インターネットを活用することで顧客との共有フォルダをもち、プリントサービスを進めていく「オープンプリントシステム」を実現。「オープンプリントシステム」は、機能①(文字コード変換、仕分け、名寄せ)、機能②(帳票フォーム、オーバレイ作成)、機能③(帳票生成、印刷スプール管理、プリンタ制御)と、PDF用処理機能で構成。これらの機能を有機的に結び付けてプリントサービスを行っている。

実際に受注している業務内容は多岐にわたる。例えば全国に2万店舗をもつ流通業からのアウトソーシングでは、店舗向けの帳票プリント業務を受注しており、月次会計帳票、業務帳票、人事帳票に加え、後処理として店舗毎、配送センター毎に仕分け梱包する。健康保険組合の特定検診・保険指导向け受託業務では、ドキュメントサービスを受注。各種帳票のプリントと、帳票用紙の断裁や通知物の圧着などの後処理、事業所および被保険者への発送業務も行っている。また、食品メーカー商社からは、請求書発行業務を受注しており、帳票の作成、プリントおよび封入封緘と投函のほか、FAX配信やファイル配信も行っている。この中では、アイシーエクスプレスのプリントセンターを拠点として業務が行われている。

こうした受託内容を見ると、いずれも各月や業務によって処理数は大きく異なる。多いもので300万通を超え、少なくとも1千通を超えていることから、いずれも大量処理になってくる。そのた

め、アウトソーシングするニーズがあることがわかる。しかし、この分野も小ロット・多様化への動きがある。そこで、今後は数万ページを複数集めて業務を効率化するなどの対応も必要だろうと考えている。

「顧客企業も過渡期にあると感じています。プリント部門向けの人を採用するという動きもあるようですが、人を集めるのは大変です。またプリント業務が本業ではない企業の場合、プリンタのリースが切れるタイミングの時の対応をどうするのか、といった課題もあると思いますが、選択肢も増えていると思います」と語る。

加えて、ペーパーレス化で文書保管がなくなりつつあり、同社のMOPSへのニーズも増えつつある。また、アナログ文書をデジタル化するためのスキャンサービスなどを受注する動きもある。一方、物流事業については、通信技術の発達により納品のみなど片道だけになったり、パッケージのサイズもコンパクト化してきているなど変化がみられる。

“物流はなくなる”という視点と、社会の変化、ペーパーレス化などの逆風をチャンスとして、1社で何でも出来るを強みにしたワンストップサービスを提供していきたいと展望している。

アイシーエクスプレス株式会社
本社 東京都大田区昭和島2-4-1
<https://www.iec-exp.co.jp/>